

都が移る理由

| | |
|----|---|
| 年 | 組 |
| 名前 | |

794年以降、日本の都であった平安京（現在の京都）は1000年以上も栄えてきました。しかし、それ以前の奈良時代には、聖武天皇が平城京（現在の奈良）のほかにも、ひんぱんに都を移しました。なぜ、天皇は都を移したのでしょうか。奈良時代の都の移り変わり、都を移した理由を調べてみましょう。

● 奈良時代の都の移り変わり

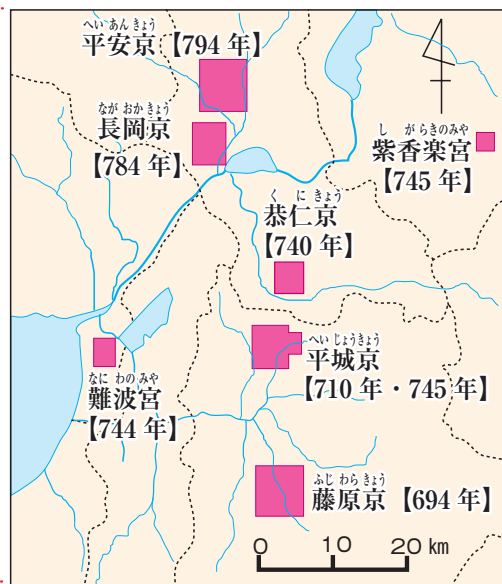
聖武天皇



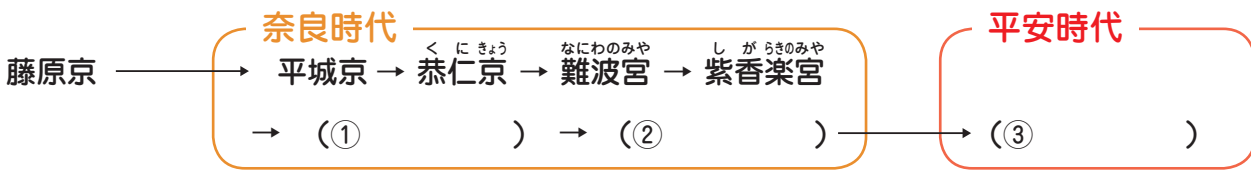
東大寺 蔵



奈良時代・平安時代のころの都の場所



右の地図を見て、次の（ ）にあてはまる都の名前を書きましょう。



● 奈良時代の天皇が都を移した理由

● 紫香楽宮から平城京へ

742年 聖武天皇は紫香楽宮に大仏をつくることを命じる。しかし、火事や地震などの災害が起こり、3年後の745年に、平城京にもどした。

● 長岡京から平安京へ

785年 桓武天皇と親しい役人が建設中の長岡京の工事現場で亡くなり、数年後、天皇の母や妻が亡くなる。9年後の794年に、桓武天皇は都を平安京へ移した。

奈良時代、地震などの自然災害や、親しい人の死などは、「怨霊（おんりょう）（亡くなった人のうらみ）」によって引き起こされると信じられていました。聖武天皇も桓武天皇も、怨霊のえいきょうを受けない土地で政治を行いたかったのです。

怨霊から都を守るために、都を移したなんて、今では考えられないね。



都が移された理由を調べることで、奈良時代の人々は、目に見えない力を信じていたことがわかりますね。